

令和元年度 事業報告

公益財団法人亀岡市スポーツ協会は、「スポーツに親しみ、スポーツで笑顔、スポーツで元気な亀岡」の実現を目指して、市民スポーツの一層の推進と競技力向上のため諸事業を展開した。

また、「京都亀岡ハーフマラソン大会」を亀岡市、関係団体と連携して実施し、より充実した大会運営に努めた。

【重点事項】

1 運営基盤の整備並びにスポーツ協会の機能の充実

諸事業の推進に必要な財源を確保するため、賛助会員を募り財源確保に努めるとともに、本協会が所有するスポーツ用具についても、使用料を徴収し、補修、補充等の経費とした。

また、公益財団法人として、市民が広くスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を形成するための諸事業を展開した。

2 市民スポーツの振興

かめおか市民スポーツフェスティバル、第68回平和祭市民スポーツ大会、第45回亀岡市民駅伝競走大会や各スポーツ教室を開催し、生涯スポーツの推進を積極的に行うとともに、市民の健康増進に努めた。

また、多様化する市民スポーツ活動に対応し、総合型地域スポーツクラブの定着に向け、活動をサポートした。

3 競技力の向上

第42回京都府民総合体育大会は、各種目において選手・役員を始め関係者の努力により、総合3位の輝かしい成績を収めた。

また、各競技においては、ジュニア選手を始め多数の選手が、近畿大会や全国大会に出場するなど、立派な成績を収め、数多くの優秀な選手を輩出することが出来た。

4 指導者の資質の向上と養成

指導者の育成と資質の向上を図るため、研修会(スポーツフォーラム)を計画したが新型コロナウイルス感染症が拡大している状況をうけ中止とした。

5 スポーツ少年団の育成と拡充

交流活動、社会奉仕活動を通して子どもたちの「生きる力」を育む事業を実施した。

また、公認ジュニアスポーツ指導者並びにリーダーの育成に努めるとともに、情報提供を図った。

6 都市間交流事業の推進

京都市西京区と亀岡市の都市間交流事業の一環として、軟式野球、ソフトバレーボール、グラウンド・ゴルフ競技を通して相互の交流を図った。

7 指定管理施設の有効活用

本協会が管理している社会体育施設については、常に施設を安全・安心で清潔な状態で利用者に気持ちよく使用できるよう維持管理に努めた。また、施設の老朽化に伴い、補修・改善を図った。